※令和４年度以降入学生用

学校番号	1010

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	(学)陶芸	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・日常生活で使用できる陶芸作品を制作する。
・作陶を通してものづくりの楽しさを味わう。
・伝統的な工芸技術に触れる。

２　学習の到達目標

⑴ 機能的な作品を制作する技術を身に付ける。
⑵ 手作りの良さや素材の特性を理解し、美しい作品を制作する。
⑶ 作陶を楽しみ、作品を日常で使用する喜びをあじわう。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・課題に最適な表現を自分で見つけ、使うことができている。 ・道具の特性を理解し、その特徴を活かした制作ができている。	・感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたことをもとに創造的な制作をしている。	・伝統文化に関心を持ち、課題に対して、前向きに取り組んでいる。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
一学期	土練り&札作り	白土を使用する。 荒練りと菊練りを習得し、その後の制作にかす。 学籍番号の札を作る。	a:粘土の性質をよく理解し、扱い方を習得している。 b:道具の使い方を理解している。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。	作品	作品	・プリント ・自己評価（制作活動の記録と振り返り）
	湯のみ	赤土を使用する。 手びねり技法による湯のみの制作。 呉須を使用した絵付け。	a:粘土の性質をよく理解しし、美しい形を形成できている。 b:顔料の性質を理解し、美しい模様が描けている。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。			
	茶碗	白土を使用する。 手びねりと技法とろくろ成形による茶碗を制作し施釉。	a:粘土の性質をよく理解し、美しい形を形成できている。 b:技法を理解し、美しい形を成形する。施釉の方法を身につける。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。			
二学期	平皿	白土と赤土を使用する。 たたら成形による皿の制作。 黒化粧と白化粧を施し、書き落としで絵付け。	a:粘土の性質をよく理解し、美しい形を形成できている。 b:技法を理解し、美しい絵柄を描くことができている。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。	作品	作品	・プリント ・自己評価（制作活動の記録と振り返り）
	マグカップ	複数の土を使用する。 タタラ成形と練り込み技法を応用し、土の色合いと柄を考えマグカップを制作。	a:粘土の性質をよく理解し、美しい形を形成できている。 b:技法を理解し、美しい柄を作ることができている。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。			
	干支の置物	複数の土を使用する。 たたら成形を用いり、来年の干支の置物をデザインし制作。	a:粘土の性質をよく理解し、美しい形を形成できている。 b:技法を理解し、美しい形を作ることができている。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。			

※令和４年度以降入学生用

三学期	自由制作	好きな土を使い、1学期と2学期で学んだ技法を用いて自由に制作する。	a:粘土の性質をよく理解し、美しい形を形成できている。 b:用途を理解し、美しい装飾を施すことができている。 c:作品に向き合って丁寧に制作できている。	作品	作品	・自由制作計画書 ・自己評価（制作活動の記録と振り返り）

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度